



この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。

平成27年3月31日 発行

# やまびこ

## No.236

### 発行

公益社団法人  
埼玉県手をつなぐ育成会  
理事長 村山 勇 治

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂2-15-3 母子福祉会館内  
Tel. 048-833-0444 Fax. 048-833-0400  
E-mail:saitama@ikuseikai.jp  
ホームページ http://saitama.ikuseikai.jp

定価50円  
(購読料は  
会費に含む)



## 平成27年度展望



理事長  
村山 勇 治

国の法人改革の一環として当育  
成会が社団法人から公益社団法人  
となり、今年初めてこの1年の  
活動報告、決算を提出する極めて  
重要な作業をクリアしなければな  
りません。

公益社団法人として義務付けら  
れている公益事業の比率や、財政  
状況等これからの育成会運営に関  
わる大事な節目となります。

本年も育成会が担っている

- 1、育成会活動
- 2、障がい者生活サポート事業
- 3、成年後見センターいきいき  
ネット

の3つの事務局と各々の事業が活  
動の中心になるかと思えます。

さしずめ5月開催予定の総会に  
向けてしっかりした方向性を見出  
して行きたいと考えています。

また私たちの全国組織であった  
社会福祉法人全日本手をつなぐ育  
成会が昨年5月、解散手続きに入

らざるを得ない状況となり、新た  
に設立した連合会も2年目を迎  
え、新組織に参加する会員の動向  
と、外部にどのような影響がある  
のか団体存続を賭けた重要な年にな  
ると思われれます。

現在47都道府県、9政令市合わ  
せて56団体のうち、危惧された通  
り政令市親の会横浜市が離脱、55  
の正会員となっております。

今年、さいたま市において関  
プロ大会が予定されており、さい  
たま市手をつなぐ育成会が当番と  
して鋭意準備中でありました。また、  
全国大会はすでに名古屋市中で開催  
されることが決まっています。

こうした状況の中、育成会活動  
の在り方に関わる議論が先ごろ  
(2月18日)に行われた関プロ代表  
者会議の席で行われました。

それは従来から少なからず議論  
されていた各都道府県、政令市が  
当番制で開催しているブロック大  
会、全国大会を行うことの意味や  
意義についてであります。

取り分け、これまで半世紀以上  
に亘って踏襲されてきた全国大会  
を開催することの功罪について、  
「伝統も大事であるが、開催ありき  
で何十年も同じことを繰り返すの  
は怠慢」「かつては親子旅行が大

会の目的の一つ、今は時代が違う」  
などに代表される開催に対して消  
極的な意見が出されました。開催  
県が直面する財政や人的負担への  
不安がその背景にあるかと思いま  
す。

全育連の執行部は全国大会開催  
についての方針は、「団体としての  
活動を内外にアピールできる場と  
しての意義を堅持」する方針を明  
らかにしています。

平成28年度神奈川県、平成29年  
度北海道、平成30年度京都での開  
催がすでに予定されているとのこ  
とです。

とはいえ、親の会の歴史は結成  
以来60年を超えて、時代の経過と  
ともに障がい福祉に対する社会の  
変化と、制度の変革によって障が  
い当事者の環境も大きく変わって  
きています。育成会活動もこれま  
で継続されてきた各種大会のみな  
らず、時代の趨勢を見極め、平素  
の活動の在り方を考えて行く必要  
があります。



平成26年12月9日(火)

### 「そこが知りたい」勉強会開催

テーマ 「知的障がい児・者の性に関する支援」

講師 重田 博氏

(上尾かしの木特別支援学校教諭)  
(県育成会スポーツ顧問)



【講師】重田 博氏

副理事長 高野淑恵

今年度の『そこが知りたい勉強会』は、県育成会のスポーツ顧問、重田博先生をお迎えして、知的障がい児・者についての性のお話をしていただきました。

母親の立場からは、どうも逃げ腰になりがちな問題ですが、重田先生の熱弁に引き込まれて、あつという間の2時間でした。中でも、

★性に関する支援で押さえておきたいこと

① 生命は性の上に成り立っているという

② 「生きる力」を身につけられる支援であること



③ 知的に障がいがあっても、子どもたちの生理的発達は同年齢の子どもたちと変わりがないこと

④ 性に関する科学的な事実を目を向けるなど基本的なことを分かりやすく話してくださいました。頭では理解しているのだけれど、いざ自分の子どもに向き合うと気後れがしてしまうものですが、子どもたちは子どもたちで悩んでいたのかもと思うと、やはりきちんと向き合わなければと思います。

★性の問題は、成長の一過程としてとらえる「困ったことではなく喜ぶこと」

★心と体の充実により健全な発達へ「自己肯定感の育成を」

★年齢相応と正しい理解の工夫「年齢にあった対応と分かりやすい説明」

★男女理解は人間理解「自分を大切に、相手を大切にすることを教える」



具体的な事例を交えたお話に、みなさん聞き入っていました。

平成27年1月28日(水)

### 家族支援ワークショップ開催

家族支援事業部 部長 新井 由加里

登校の風景に懐かしさを感じながら木の温もりのある校舎の二階の教室に案内されました。

久しぶりのワークショップに少し緊張するも数年振りのファシリテーター仲間との再会に笑顔の私。そして今回ファシリテーターデビューする4人のみなさんという、かなり緊張していたのではないのでしょうか。

参加者のみなさんは、最初は緊張気味でしたが「自己紹介ゲーム」をするうちに気持ちもほぐれ笑顔になりました。

パワーポイントを使った「学習プログラム」では真剣な眼差しでファシリテーターの読む言葉に耳を傾けていました。「ワーク」ではシートをチェックし「子供との心理的距離」を見つめ直し、その気づきをグループ内で発表していました。中には今まで言えなかった思いを涙しながら話される方もいました。それをきっかけにいろいろな経験や悩み、思いをそれぞれが発言し活発な話し合いになりました。

最後はグループごとに手を繋ぎ、参加者全員で「今日は皆さんとお話できて良かったです！」と唱和し、私はそ



の元気な声と笑顔に、活力をいただきました。

帰り際に小学部のお母さんが高等部のお母さんに「これからも卒業後のことや先のことを色々聞かせて下さいね。」と話しかける姿を目にし、学部を越えた繋がりができたことを本当に嬉しく思いました。

それからワークショップを一緒に体験し、こちらの振りにも気さくに応えて下さった教頭先生、ありがとうございます。先生の感想をうかがい、お父さん方にも体験して欲しい！と改めて感じました。

みなさん、お疲れさまでした。

### 当日のワークの流れ

- ① 主催者あいさつ、自己紹介
- ② ワークショップの目的とルール
- ③ 自己紹介ゲーム  
(ぬいぐるみキャッチボール)
- ④ 学習テーマ1  
「家族にも支援が必要です」
- ⑤ 親子関係チェックシート2
- ⑥ 分かち合い、終わりのワーク
- ⑦ 終了 終わりの言葉



最初は緊張した様子でしたが、話していくうちに和やかな雰囲気に。

平成27年2月25日(水)

# 知的障害者支援者養成講座開催



テーマ 「個別支援についての知的障害者の支援のしかた」

講師 石井 勇太 氏 (NPO法人jogoo 代表理事)

副理事長 高田 憲

本人の言いたい事、こちらから言いたい事が伝わらないと改めて思い知らされました。

「個別支援について」知的障害者の支援のしかた」をテーマに、2月25日に、会員・非会員合わせて24名の参加を得て開催されました。

講師にNPO法人jogoo代表理事、石井勇太氏において頂き、実践を想定した支援について講義を受けました。

参加者を5グループに分け、「紙を3センチ四方に切って下さい」。私語は禁止され、黙々と紙切りに専念しました。

正に先が見えない見通しの無い事を体験しました。この行為にどんな意味が有るのか、いつまでやるのか等、本人には指示が必要だということに気付かされました。

次に、指示が書かれた紙を読み、人に正確に伝わるかを行いました。



自分の身体で体験し、本人たちはどのような支援を必要としているかを学びました。

jogooは、ポルトガル語で「遊ぶ」という意味で、本人と外に遊びに行こう、との思いで付けられたとの事でした。

これらの事を頭に入れ支援に取り組んで行きたいと思えます。

更に、支援の前に行う準備ではアセスメント(情報を収集分析し、解決すべき課題を把握する)を行い、困っている事に対しての支援や、出来る事や得意な事を活用して支援を組み立てる事。また、その場で調整し軌道を修正しながら支援を行うことも大事です。

「エイカバイナカイジャオ」意味のわからない言葉は、数分後ジェスチャーを交えてやっとなりまじりという意味だと判明し、会場内に拍手が湧きました。

言葉だけでは伝える事が難しい事をどうすれば伝わるのか工夫が必要で一人ひとり「分かりやすさ」にも違いがあるのです。

反響にお応えして 続・続編!

# ロボットスーツHAL体験記

## ロボットスーツHALとの出会い

鴻巣市手をつなぐ親の会 岡本 優子

ある土曜日の朝、慌ただしく身支度をして、市内にあるグループホームに息子を迎えに行き、つくば研究都市に出发します。

現在、息子は短い距離は歩いているものの、年々歩行力の低下が見受けられ、いずれは車椅子での生活を余儀なくされるだろうと思っていました。そして、昨年7月に行われた県大会で、我が家と同じ脳性まひの息子さんをお持ちのお母さん、佐藤早苗さんの体験発表は、障がい診断されるまでの経緯などが、息子と重ね合うことが多く回顧しながら聞き入っていました。その中で、ロボットスーツのお話には、とても刺激を受け、どんなものなのか？息子にも経験させてみたい！と興味が多々膨らみ、その後、佐藤さんに連絡を取らせて頂き、昨年9月からつくば市にあるサイバードインスタジオに通い始めました。

世界初のロボットスーツHAL(ハル)は、装着する人の意思を感知して立ち座りや歩行行動をアシストする、夢のようなロボットでした。トレーニングは、本人の状態に合わせ、装着中

は力を入れずに楽に歩行できる感覚を経験しています。緊張が強く、力を入れて歩くのが普通であった息子は、『雲の上を歩いているよう』と満面の笑みを浮かべ、初めて力を抜くことを体験できた瞬間でした。HALを着脱した後も暫くは、身体がとても楽になるように、『これからも通いたい！』と本人も希望しています。月1回は通いたいのですが、テレビで放映された反響が凄く、以前に増して予約が取りにくい状況です。一日も早く埼玉でも取り入れてくれる医療機関ができるといいのですが。今ではトレーニング後の寄り道も楽しみのひとつになりました。



▲ HALのトレーニング中。

▼ハートビートクラブの地域イベントに参加する様子。



# 道標(みちしるべ)

副理事長 高野淑恵

日本から遠く遠く離れたシリアという内戦の絶えない地で、ふたりの日本人が無残な最期を遂げました。青い空の下、乾いた風の吹き抜ける中で、最期の瞬間に思い浮かべたことは何だったのでしょうか。誰の面影だったのでしょうか。人が人に、どうしてこんなにも残酷になれるのか。復讐の連鎖はいつになったら断ち切ることができのでしょうか。世界中が戦争に明け暮れた第一次、第二次大戦から、平和の尊さを学んだはずではなかったのでしょうか。テロリズムによって国は生まれません。歴史も変えられません。女性や子供にまで自爆テロをさせて、どこに大義があるのか、どんな正義があるのか、理解できません。この飽食の時代に、彼の地の子供たちは飢え、学ぶことも無邪気に遊ぶこともできません。障害を持って生まれてくる子もいるでしょうし、戦闘の中で手や足や体の一部を失った子供たちも大勢いるでしょう。そこには福祉とか人権とか、人として最も大切なものが存在しないのです。ずいぶん前、東欧の独裁政権がクーデターによって追い落とされ、逃走していったあとの廃墟に残されていたのは、数十人の知的障害児でした。誰一

人、この子供たちを救おうともせず、打ち捨てられた子供たちは極限までやせ衰え、飢えと恐怖と混乱に、ただ奇声を発し、叫ぶばかりでした。その報道を見たときの心の痛み、悲しみを忘れることはできません。権力者の欲とエゴイズムによる争いの果てには、必ず一番弱いものたちが犠牲になるのです。

私たちの育成会は、福祉も人権も、何もなかった時代に生まれました。何もなかったところから、学校も、医療も、就労も、障害年金も、知的に障害を持った子供たちに与えることができるように活動を重ねてきました。二〇一三年には、成年後見人がついているという理由で剥奪されていた選挙権も回復することができました。それでも、まだまだ、知的に障害のある人々を蔑視する人、嘔う人、忌み嫌う人は社会にたくさんいます。来年には、『差別解消法』が施行されますが、社会に浸透し、理解されるまでに長い時間が掛かりそうです。でも、ここで私たちが停滞してはいけないのです。テロリズムに明け暮れるような社会に逆行しては絶対にいけないのです。障害の有る無しに係わらず、共に生きていく時代がすぐそこまで来ています。あとに続く若い世代の人たちのためにも、これからは私たちの育成会が、希望の道標(みちしるべ)になりましょう。知的に障害のある子供たちの幸せのために。

二〇一五年三月三十一日発行(二三六号)

## 第52回 県大会 (越谷大会)のご案内

開催日 平成27年7月5日(日)

会場 越谷サンシティホール (JR武蔵野線南越谷駅、東武スカイツリーライン新越谷駅より徒歩3分)

皆様お誘い合わせのうえ  
ご参加ください!

### あとかき

年度初め、何かと忙しいこの時期。事務局員は5名中4名が花粉症のため、この季節はマスク装備が決め手になります。

花粉症をなくすためにはどうしたら良いのかな? 杉の木をすべて伐採してしまったら解決するのかな? でもそれだと生態系が崩れてしまうのかな? 近未来では、顔の周りを覆う最新のマスクが登場しているのかも? ... などと考えながら、鼻をすすって毎日仕事をこなしています。

事務局より

### AIUの障害者割引適用自動車保険について

2013年10月現在の内容です。

自動車保険 総合自動車保険 (type P/ type B) / 家族総合自動車保険 (type R)

「身体障害者手帳」「療育手帳」などをお持ちの障害者とそのご家族のための自動車保険です。障害者割引の適用により、

他の保険会社からの無事故割引(等級)を継承したうえで、さらに保険料を10%割引(弊社同内容商品比)

家族総合自動車保険では、ゴールド免許証の方は、別途、最大18%の割引も受けられます。

車の故障・事故等に役立つロードサービスを無料\*でご提供します。

\*30分を超える特殊作業など、場合によりお客さまにご負担いただくことがあります。

株式会社ジェイアイシー (AIU保険会社 代理店)  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-2-11  
新宿三井ビル 2号館 2F  
フリーダイヤル: 0120-213-119 FAX: 03-5321-4774  
受付時間 9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始を除く)



AIU 損害保険株式会社(引受保険会社)  
〒163-0814 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NSビル 14F  
TEL: 03-6894-9110 FAX: 03-6894-9922  
受付時間 9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始を除く)  
ホームページ: http://www.aiu.co.jp

A-000425 (2015-11)

公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会